



## \*5/27 開催 学習会 18名参加\*

今回の青年部学習会は、「組合とは？」と題して、副執行委員長の櫻井憲太さんよりご講演いただきました。

「公務員は周りの人から一般的には良い環境だと思われるが、それは、『憲法で守られているから』ではなく、労働組合がしっかり活動しているからだ。」「自治労は日本で2番目に大きく、人数が多いことが強みであるが、近年は合理化による職員削減で、100万人いた会員は85万人まで減っている。」「平和闘争の重要性はあまり感じないが、あっという間に世の中は変わる。」「そもそも組合は共済活動から始まった。」「家族を守るのは労働組合」など、本音を交えた貴重なお話を頂きました。



それぞれの心に残るお言葉がたくさんありました。櫻井さんには、お忙しい中にも関わらず、講師を受けていただきました。本当にありがとうございました！！

### 以下感想 抜粋

労働組合の原点から団結に至るところまで、詳しく学ぶことが出来た。「労働者の賃金条件が良いのは、労働組合があるからで、**家族を守るのは労働組合**」という言葉が印象的。また、「組合を通して他単組に仲間ができたことが一番の利益」ともあり、正直自分自身集会等に参加しても他の単組との交流を密にしていなかった。仲間と呼べるほどの輪の広がりがなく、今更反省。今回のような学習会は、年に1回必ずあった方が良い。

積極的な活動のモチベーションがどこから来ているのかを知ることが出来た。「仕事が忙しい中で家族団らんの時間が減って寂しい」と、これから活動が増え、さらに団らんが減るのが目に見えるようで忍びないが、それでも**覚悟を持ち活動し続け**、専従となる櫻井さんを、青年部も**是非応援**しなくてはと思う。労働組合の起こり、平和・政治闘争の大事さ、団結するからこそその交渉力など分かり易く本当に大切なことが再認識できた。



自分自身に置き換えて感じられる学習会だった。組合活動ってなんのために、何で集会に参加しなきゃいけないのだろうと思ってしまう事も無い訳では無い。今の職場で働き続けるため、組合活動は、**必要不可欠**であるという意識を強く持って活動すべきなのかと改めて思った。

**熱い思い**が伝わり、**組合活動に足を運ぼう**という気持ちになった。

組合に関してというより、櫻井さん個人として組合活動をなぜしているのかという、ある意味本心「**家族を守る為には組合活動だった**」という。団体職員だから...などといった理由とはまた違う「**自分の畑を守ろう**」とする意思が根底にあるという事を聞けて良かった。

**私たちは組合に守られているのだ**と実感した。賃金や職場環境といった面で色々してもらっているのだから、組合の活動に**積極的に参加**していきたい。

専従について解らない事だらけだが、話を聞いてなんとなくイメージがつかめた。「自分も**出来る事** (集会に参加するなど) から始めよう」と、青年部員が思うことのできる講演会だった。

自治労共済の始まりを聞くと、組合員の助け合いであった。入ることで仲間の助けになるものは必要と思う。保険は自分が何かあったときのため、としか考えていなかった



が、それは仲間の助けによるものだという考えはなく、勉強になった。実体験を元に、自分がどう感じたかが伝わり、講義的なものとはまた違っていた。「**当局との戦いは、負け続けるけど、戦い続け**ないと生きていけない。戦いをやめればそこで**終わる。言いなりになるだけ**。」の言葉が印象的で、どうやっても勝てないかもしれないが、何もしなければ

ばどどん現状が悪くなるということを改めて感じた。自分たちが組合活動を行う意味につながっていると思った。

平和運動の**赤紙**を役場職員が配達したという話について、私は4年目に聞いたので、聞いたことのない若い組合員にとっては貴重な経験だったと思う。青年部員も専従のイメージがわいたと思う。

参加して良かった。親しみやすい話し方で堅苦しくなく、改めて関心をしっかり向けていくことの大切さ、微々たることかもしれないが一人一人の意識の持ち方で少し変わっていくのかと感じた。

基礎的なところから深いところまでわかりやすい講演だった。特に気になっていた、専従については、なんとなくイメージができた。また基礎的な知識の再確認ができ、とても有意義だった。組合活動は、一人ではできない、皆でやるからこそ、意味を成すのだと思う、できる限り活動していきたいと改めて考えさせられた。

なぜそこまで組合活動に努めるのか？「一番は家族を守るため」そのとおりで思う。「仕事も組合活動も両立して大変でも、家族のためなら頑張れる」私もそういう人間になりたい。決まった人で活動するのではなく、全員で回したら一人一人の負担もそこまでかからなのではないかと思った。専従についてはまだまだ未知の部分が多いが、今後経験する事も有るかもしれない、機会があればまた色々教えてもらいたい。

労働者としてという視点だけではなく、生活者としてという視点も必要、家族を養うために必要な時間とか経費を手に入れなければいけない、そのための労働という視点も必要なのかと思った。

質問で「組合の一番の成果は何ですか？」に、「困ったときに助け合える仲間をつくれた事」と答えがあり、これから本当に大変になると思うので、剣淵の仲間であってほしいなと思った。「労働者は闘い続けなければいけない。負け続けるけれど闘いを止めるわけにはいかない。この闘いが、労働組合が家族を守ってくれると信じている」の言葉を思い出してこれからの活動を頑張っていきたい。

仲間づくりが仕事にも影響し、お互いに助けあえることに繋がるという話からとても共感した。組合は自分のため、みんなのためにもなるので、みんなで団結して頑張りましょう。

一人ではだめでも大人数で動くことによって、牽制を行うことができる。「組合活動はお金がもらえないから…」 「運動をしても何も変わらないから…」 などとは考えず、「自分の為だけではなく、職員みんなの為に、自分の家族の為に、活動するのだ。」という気持ちで、組合活動に参加することが大事だと思う。

本人の動機を話してくれてよかった。自分も、大好きで自主的にというよりある意味仕事のようなものと捉え、自分の中での意味付を意識的に保ち活動していて、外の人が

どんな思いで取り組んでいるか知りたかった。「組合活動と矛盾点もある、考えてやってみていくしかない」という率直な意見には同感だ。自治労が産別で数が2位には驚いた。道内単組ごとに見ていくと皆仕事に忙しくなかなか積極的に参加できないのではないだろうか、数が2位でも、内情は楽観視できない。賃金、労働条件が活動の中心になることが多いが、平和、政治について具体的な話があり勉強になった。「一人でやっても負ける、正直集団でやっても負けるけど、おかしな世の中にしたくない、ということで運動しなければならぬ」本当にそのとおりで思った。「忙しいけど、その中で一歩踏み込んで、仕方ないかという気持ちで集う、それが団結」組合に入って初めて、「そうか〜」と団結の意義を実感したセリフだった。

\*\*\*\*\*

## \*5/30 開催 名寄地協団結集会 3名参加\*

士別市で開催され、名寄地区連合会会長 東則良氏より「組合運動って何だろう」と題して基本的な事項や、社会情勢（高度プロフェッショナル制度・労働者派遣法改正）などが講演され、全国集会参加者の報告が行われました。

剣淵町からは大内さん、遠藤さん、加藤さんの三名が参加されました。

### 以下感想 抜粋

印象的なのはサービス超勤が「不法に職場に居座ることである。」という言葉だった。超勤は〇〇〇という仕事をするから職場に残してください、届け出がなければ不法に居座ることということであり、改めて超勤の記載の大事さがわかった。来年も同じ内容であれば是非1~3年目の人に積極的に参加してもらいたい。

労働運動等に関する法律等について、とてもわかりやすかった。法律があるから、労働環境が守られているということを改めて認識した。風連町職員の時々は名刺をもらえず権利として交渉していたが、合併した途端にすぐ作ってもらえたとの話もあり、剣淵町でも交渉したら作ってもらえるのかなと思った。

毎日定時に帰れている人は限りなく少ない。やるべき仕事は多いが、人は少ないので時間外でやるしかないのが現状だと思う。改善の余地はないのか。分散会で、安心して働き暮らすのに必要なものを、皆がまず「賃金(お金)」と答えていた。確かに職場環境も大事だが、やはり生活の不安をつくらないためには結局「賃金(お金)」なんだなと少し切なく感じた。

